

教育センターだより

令和6年度 第1号

黒部市教育センター

Road to an expert

黒部市教育センター 所長 大前奈津子

十数年前に私が勤めていた中学校の校長先生は、授業を料理に、教師をシェフに例えておられました。

食材は何にしようか、下処理や下味は必要か、どう調理しようか、どんな栄養が得られるのか……。料理の時はそんなことを考えていると思います（私はズボラなので、下処理や下味はあまりしませんが）。授業の場合はどうでしょう。どんな教材を用いれば児童生徒の興味関心を高められるか、その教材の特徴やよさをどう生かせばいいか、どう指導すればおもしろくて深い学びになるか、どんな資質能力が児童生徒に身に付くか。いろいろなことを考えて授業の計画を立てたり実践したりしているのではないのでしょうか。

シェフが違えば、できあがる料理は全然違います。得られる栄養や心の満足度にも違いがあるでしょう。授業も全く同じです。1学期に参加させていただいた学校訪問研修会では、授業をされる先生によって、同じ単元・教材でも指導過程やねらいとする資質・能力に違いがありました。とても興味深かったと同時に、身に付けるべき資質・能力をきちんと身に付けることができ、「おもしろい、わかった、できた」と思ってもらえる授業について、もっと勉強したくなりました。

とやま型学力向上プログラムⅢ期では、「問題発見・解決能力の育成」のために、授業改善の視点として「子供の問題（課題）意識を高める」「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」をあげています。「教師が教える」授業から「子供が学ぶ」授業への転換が求められています。その場合の教師の役割は、必要なアドバイスや示唆を与えながら、子供のトライアンドエラーの繰り返しを見守ることになります。料理で言うなら、自分で必要な栄養を考えて、それを摂るために食材を選び、最適な方法で調理して食べることができるようになるために、シェフは手本を見せて導く、というところでしょうか。そういう点では、若手教員の授業力向上にも、トライアンドエラーが大切だと気づかされます。

おいしく食べられるように、栄養をしっかり摂れるように、また食べたくなるように……。そんなことを考えながら、料理の腕を磨くべく、達人への道は終わりが無い、と聞きます。先生方の授業の腕を磨く道もまた、ずっと続いていきます。その道のりが、少しでも楽しくおもしろく有意に感じられるよう、教育センターでできることを考えていきたいと思ひます。

令和6年度 黒部市教育センターの運営について

4月30日(火)第1回運営委員会を開催

本年度の事業計画についてご審議いただきました。下記に示した運営の基本方針並びに重点項目に基づき、いただいたご意見を踏まえ、事業を進めていきたいと考えております。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

教育センター主催の研修事業については、ホームページをご覧ください。



◆ 令和6年度黒部市教育センター運営委員（敬称略）

運営委員長	岡本 薫	（小学校長会会長）
運営副委員長	柴田 由明	（中学校長会会長）
運営委員	小倉 信宏	（学校教育課長）
	若島 肇	（学校教育班長）
	福澤 祐子	（こども支援課長）
	寺島 紀子	（小学校教育研究会会長）
	川端 浩嗣	（中学校教育研究会会長・生徒指導連絡協議会会長）
	平田 恩	（帰国児童生徒教育研究会会長）
	中森 晴美	（小中学校教頭会会長）

1 運営の基本方針 ～黒部市教育の一層の充実～

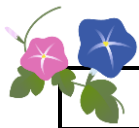
学校や関係機関との連携を密にし、時代の変化に対応するとともに、地域・学校の要望に応えられるセンター運営を目指す。

2 重点目標項目

- ① 児童生徒の学力・体力向上、教員の資質向上を目指す研修会の実施
- ② 生徒指導・教育相談の充実（いじめ、不登校、特別支援教育の推進）
- ③ 黒部国際化教育の充実を図る研修会の実施
- ④ 学校教育を支援する調査・研究の推進
- ⑤ 迅速な教育サービスの提供

<運営委員会での主な意見>

- ・いじめ対応やインクルーシブ教育等、学校の対応を求められる内容についての研修を進めるとよい。
- ・教員の資質が向上する研修という視点と、働き方改革という視点の両方を踏まえ、研修のもち方を工夫したらよい。
- ・幼小連携のためにも、幼稚園や保育所と一緒に参加できる研修があるとよい。
- ・研修で得た学びを先生方で共有できるよう、伝達講習のための校内研修を工夫したい。



1学期の市教セ研修から ～参加者の皆さんの学び～



【学級経営研修会】4月3日(水)、5月10日(金) 新規採用教員

今年度、黒部市で採用となった13名の教員で情報交換を行いました。

単級で全て自分でやることに不安でしたが、この場で同じような境遇の先生方と少しお話ができて、そして繋がるのができて安心しました。

第2号で新規採用の先生方を紹介します。

同期と話をするのができ、緊張や心配していることも抱えながらも、頑張っていることを知れてよかった。自分も頑張りたい。

何をやらなければならないのか、全てをリスト化したいが、分からないことをその都度聞いているので、ご迷惑をかけているような気持ちになります。

2年次の人に学ぶ機会があれば嬉しいです。
同じ養護教諭の先輩とお話したいです。



【新規採用者の知りたいことリスト～アンケートより～】

- 授業や成績の付け方、トラブルの対応の仕方など
- 授業や事務などの効率化が図れるような豆知識
(掲示物の簡単な作り方、再利用の仕方、100均で使える物など)
- 子供の発言を活かした授業づくり
- 褒め言葉のバリエーション

【チーム学校を支えるマネジメント研修会】

人間関係づくりゲームの模擬授業を行いました。

5月8日(水) 2年次教員

5月21日(火) 3年次教員

授業や校務分掌で昨年より忙しく、慌ただしい日々を送っていました。今日先生役として簡単なゲームをしましたが、子ども役の先生も楽しみ、僕自身も楽しんでいることに気づきました。普段の学校生活の中でも子供達も自分も笑顔でいられたら良いなと感じました。



楽しいゲームの中に、いろいろな配慮やルールづくりがあって、その細やかさが良い学級作りにつながると思った。

対人関係ゲームの進め方やポイントが学べてとても勉強になった。中学校の先生方の話し方は勉強になった。ポイントや約束は繰り返して確認したい。

楽しいことを行う時には、事前にルールを確認することや目的を伝えることがとても大切であることを再確認した。学年に応じてできそうなものや、簡単すぎるものもあると思うが、自分のクラスに生かせるようにアレンジしながら取り組んでみたいと感じた。

どのグループの先生方も笑顔で、全力で真剣に取り組んでおられてすてきでした。この仲間と同期になることができてよかったです。きっと先生が笑顔だと生徒全員も笑顔になるのかなと思いました。

【生徒指導主事等研修会】5月17日(金)、6月14日(金)

生徒指導主事、カウンセリング指導員等

第1回 黒部警察署刑事生活安全課 河合 正輝 生活安全係長の講話

「SNSにおける危険防止について」

子供たちにSNS等のメリット・デメリットをしっかりと伝え、“自分は大丈夫”という意識を変えていかなければならないと感じた。



SNSを通じたトラブル事案について知ることができて良かった。未然防止のために情報共有します。また、子供たちの実態に合わせて、正しい知識を身に付けさせるための指導を行い、正しい判断力を身に付けられるようにしたい。

第2回 宇奈月小学校 生徒指導主事 島瀬 容子 先生の講話

「いじめ問題における加害児童への指導・支援の在り方」

いじめに関していつも被害者について考えることが多かったが、加害者の不快感情がいじめのエネルギーになるという言葉がとても納得できた。



感情は生きる手段として使っており、抑制されるといじめにつながっていくことを学んだ。まず、加害児童の感情をありのままに受け止めることで自分の非に気付くことができるようにしたい。

いじめの停止要因として加害者の認知や見方、感情に教師が最も大きな影響力があるという話があった。大きな影響力をもつ存在であると自覚して、今後も対応していきたいと思った。

【情報教育研修会】5月9日(木)、6月4日(火)

情報教育研究委員、6年次教員等

県総合教育センター科学情報部の 東海研究主事、阿久津研究主事による、情報モラルや「Teams」を活用したICT活用指導力の向上を図るオンライン研修を行いました。

GIGAスクール構想が4年目となり、様々な取組が行われていることを実感するとともに自分たちの職場では取組がまだまだ足りないことを痛感しました。

子供たち1人1人がタブレットを活用できるようにセルフチェックを使って実態把握し、対策をとっていききたい。教師の一斉授業ではなく、子供が主体的協働的に取り組む授業作りをしていききたい。

授業の在り方が大きく変わっていきこうとしていることについていけるか心配になった。子供に使わせるから子供が使うに変えていききたい。

《黒部市の情報チェックシートを活用しましょう》

児童生徒の実態把握に使用した情報チェックシートや、情報活用能力体系表を活用して、問題解決学習を通して情報活用能力を育成したり、情報モラル・情報セキュリティー教育を推進したりしましょう。

【外国語教育研究部会研修会】6月3日(月)

外国語教育研究部員、JAT、JET、ALT、中教研英語部会会員

明峰中学校の金山先生の授業参観と、指導力向上に向けた意見交換を行いました。

中学校の授業の進め方、テンポ、雰囲気を知ることができ、より小中連携について考えていかなければと思った。金山先生がたくさん英語で子供たちに話しかけていて、英語が分かってしゃべれると楽しいんだろうな!がんばりたいな!という思いを高めていた。

Kanayama sensei's lesson provided excellent examples of how to keep students moving and excited in English class!!

I learned that we should speak more English during the regular English class.

生徒が後輩に伝えたいという思いを生かす活動を設定されたことが主体的に取り組むことにつながったと思います。協議会では小学校の先生と意見交換ができたことが今後の指導に役立ちそうです。



同じ授業を見ても、小学校の先生方や英会話科の先生方はまた違う視点から授業を見ておられ、大変勉強になりました。

黒部市では令和6年度からコミュニティ・スクールがスタートし、各学校でも第1回学校運営協議会が開催されました。コミュニティ・スクールについての先生方の素朴な質問にCS専門員の齊藤誠先生に答えていただきます。

教えて!CS専門員さん

○コミュニティ・スクールのメリットは?

学校運営協議会を核として、学校と地域・家庭が育てたい子供の姿などを共通の目的をもって連携・協働する体制を整え、地域・家庭が一体となって積極的に学校運営に参画し、よりよい教育の実現と地域の活性化を図ります。

○学校評議員委員会とは何が違うのですか?

学校評議員会制度では校長の求めに応じて評議員から意見を伺う場でした。学校運営協議会を核に据えることで、責任と役割などが明確となり、地域・家庭の参画を促すことで、学校が進めたい取組や課題などについて、より積極的に改善と発展を図ることができます。具体的には、学校を支えてくださる多くの人々の知恵やアイデア、エキスパートとしての技能、組織としてのつながりを土台にした見守りや声かけなどにより、子供たちの安全・安心、学びの充実が可能となります。

○そのためには、学校はどのように進めていけばよいでしょうか。

子供たちの学びの深まりや発展を見据えた学習計画が必要となります。どのような教科で、どんな力を育てたいのか、そのためにはどんな学習や体験活動が必要なのかなど、中・長期的な視点で計画を具体化し、地域・家庭の理解と協力を得るように、進めていきましょう。ボランティアの協力を得た場合のお礼の仕方なども学習計画に位置付けることで、地域ボランティアの方々の笑顔も増えるのではないのでしょうか!



【地域ボランティアの方と一緒にクラブ活動(若栗小)】

Welcome to Kurobe! よろしくお願ひいたします

今年度、市内小・中学校に赴任されたみなさんです。(学校順に掲載)



「多面的・多角的に見ることを大切に」

たかせ小学校 校長 岸 泉

道徳科になったとき「多面的、多角的に見る」ということを叫ばれるようになりました。研修会で説明されるその意味を当時はとても難しく捉えていましたが、何てことではない「いろんな人の立場で、いろんな方向から見方を変えて考えてみること」なんだと腑に落ちました。私は「教員は世間知らず」と揶揄される典型のように、初任から地元小学校以外で勤務したことはなく、きっと一面的一方向の見方しかできていなかったように思います。学校から一旦離れた経験は、黒部市を違う視点から見る事ができた貴重な時間でした。この経験を生かして、改めて黒部の教育を多面的・多角的に見て、黒部の子供たちのために尽力していきたいと思っております。

「子供たちのために」

宇奈月小学校 教頭 河田 美保

「せんせい、一緒にあそぼう」と、休み時間に声をかけられるたびにうれしさいっぱいになります。子供たちと一緒に過ごす中で、子供たちの澄んだ瞳、にこやかな笑顔、素直な心に吸い込まれるとともに、夢中になることの楽しさや粘り強くひたむきに努力することの大切さに改めて気付かされます。子供たちのために、自分ができるところに全力を尽くしたいと思います。

「清明中に着任して」

清明中学校 教諭 鈴木 大地

行政機関での勤務を経て3年ぶりに教諭として学校の現場に戻ってきました。保健体育の授業や陸上競技部での活動と一緒に汗を流すのも久しぶりで、体のなまりも感じますが、清明中学校で過ごす日々は毎日とても充実しています。成長著しい生徒の皆さんに負けないように笑顔で元気に過ごさせていけたらと思います。一緒に充実した学校生活を送りましょう。今後ともよろしくお願ひいたします。

「黒部市立清明中学校に着任して」

清明中学校 教諭 米多 彩

この度、滑川市から黒部市に着任してきました。新しい環境のおかげで新たな課題をもつことができ、試行錯誤を繰り返す日々です。思うようにいかないことが多いですが、授業では、生徒の反応を見ながらあれこれ試すことに楽しさを感じています。分からないことだらけだからこそ、生徒や先生方との関わりを大切にしながら、精進したいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

「『よさ』に気づくことのよさ」

明峰中学校 教諭 市岡きぬえ

4月に咲き誇る、しだれ桜を再び眺めて勤務できることをうれしく思っています。学校では、先生方が「生徒がよりよく過ごすために」と時間を惜しまず準備や対応に取り組んでおられます。今年度からアクションプランの一環として生徒のよい言動を全職員で共有する取組を行っています。生徒のよさに気づき、共有し、広げることで明峰中学校のよさが深まっていくことを楽しみにしています。「今日はどんなよいことがあるかなあ〜」とわくわくしながら勤務しています。

教育支援センター ほっとスペース「あゆみ」 (黒部市新牧野220 勤労青少年ホーム内)

- ☆運営の基本方針
 - ・不登校の児童生徒の実態に即した居場所づくりに取り組むとともに、社会的自立を目指して成長発達に役立つ活動を実施する。
 - ・相談活動により児童生徒や保護者の心の安定を図るとともに、保護者と連携して児童生徒の支援を行う。
 - ・学校や関係機関との連携を密にし、児童生徒と保護者を支える。
- ☆開設時間
 - ・児童生徒の受け入れ・・・火曜～金曜 9:00～15:00
 - ※ 夏季休業中は火、木のみ9:00～15:00 開所
 - ・相談(電話・面談)・・・火・水曜 9:00～16:30
 - 木・金曜 9:00～17:00
- ☆指導者
 - ・教育相談員 根塚 昌志
 - ・指導員 内橋 順子 大坂 由喜子
- ☆活動内容
 - ・教科指導(個別学習)、運動、工作、実験、校外活動等



.....ほっとスペース「あゆみ」日記 6月14日(金).....

初夏を思わせる陽気の中、所外体験活動を実施しました。電鉄黒部駅から地鉄を利用して新黒部駅まで行き、地域観光ギャラリー・黒部宇奈月温泉駅を見学しました。地域観光ギャラリーではクイズに挑戦したり、山・川・海のシアターを楽しんだりしました。黒部宇奈月温泉駅では入場券を購入して駅ホームに入場し、新幹線「かがやき」の通過時に風圧を体感しました。帰りは東三日市駅で下車し、あおーよ図書館に寄った後で、メルシーで昼食を購入してほっとスペースに戻りました。黒部市の魅力を知り、人や各施設と関わり、ルールやマナーを学び、仲間と協力する時間になりました。

〔参加した児童の感想〕

- ・きょうはまちあるきでした。でんしゃにのってすごくはやくかんじました。でんしゃにのってうれしかったです。
- ・今日は、まちあるきででんしゃにのってしんくろべえきにいきました。とってもたのしかったです。しんかんせんがとってもはやかったです。
- ・今日は、電車にのり、新黒部駅において新幹線の駅で新幹線がつかさずるのを見ました。新幹線は1秒もかからず通りすぎたので、風がふいて楽しかったです。



「あゆみ」よりお知らせ

来所した児童生徒について、お知らせしたいことがあったときに、学校メールに連絡を入れます。時間のあるときにほっとスペースに電話してください。



★教育センターの職員紹介

☆所長	大前奈津子	☆SSW	板東由美子
☆指導主事・研究主事	佐渡さやか		能沢 一代
☆指導主事・特別支援教育コーディネーター	林 真奈美	☆いじめSW	森下 吉光
☆研究主事	延山麻理子		
☆校務助手	高瀬 緑		



教育センターの入り口で
自生したピオラ

センターからのお知らせ

貸し出します！ 書籍、検査セット、ボードゲームをご活用ください

★書籍

一度手に取ってご覧ください。ご希望の書籍がありましたら、電話かメールでご連絡ください。黒部市内であれば、市庁舎の棚を通して貸し出します。新刊についてはホームページでもお知らせしています。



新刊



夏の研修の講師の先生の書籍

★検査セット

＜貸し出し検査一覧＞				
検査名	出版社	適用範囲	実施時間目安	内容・特色
新 新版 構音検査	千葉テストセンター	幼児～成人	-	構音の誤りの有無を系統的に判定診断し、構音治療の指針が得られる。
『見る力』を育てる ビジョンアセスメント	学研	小学1年生～6年生 (中学生以上は 参考値)	短縮版：40分 完全版：60～70分 補助検査：5～10分	3領域（視知覚、目と手の協応、眼球運動）の視覚関連基礎スキルを、10種類の下位検査でアセスメント。弱点の改善を行うドリル付き。
PVT-R 絵画語い発達検査	日本文化科学社	3歳～12歳3カ月	15分	基本的な語いの理解力の発達度を測定。
S-M社会生活能力検査 第3版	日本文化科学社	乳幼児～中学生	15分（日常生活をよく知っている大人が回答）	自立と社会参加に必要な生活への適応能力を測定。身辺自立、移動、作業、コミュニケーション、集団参加、自己統制の6つの領域から構成。
Vineyard- II 適応行動尺度	日本文化科学社	0歳0カ月～ 92歳11カ月	20分～60分	個人的、または社会的充足に必要な日常活動の能力を評価。様子をよく知っている回答者に半構造化面接を行う。
田中ビネー知能検査V	田研出版	2歳～成人	30分～1時間	日本人の文化、パーソナリティ特性、生活様式に即した問題内容。年齢尺度で構成。
就学児版 田中ビネー知能検査V	田研出版	5～6歳	30分～1時間	就学に関して特別な配慮が必要であるか否かの診断に特化。
WISC-IV知能検査	日本文化科学社	5歳0カ月～ 16歳11カ月	60～90分	10種類の下位検査と5種類の補助下位検査で構成され、5つの合成得点(全検査IQと言語理解指標・知覚推理指標・ワーキングメモリー指標・処理速度指標の4つの指標得点)を算出。

★ボードゲーム

SST ボードゲーム 「フレンドシップアドベンチャー」

- ・対象：小学4年生～中学生
- ・人数：2名～6名
- ・すごろく式のゲームをしながら、楽しく SST が学べます。自分らしさに気づき、自信をもって友達づきあいができるようになるために開発されたゲームです。

おたすけ箱！ □学校間共有＞□黒部市教育センター＞□30 おたすけ箱

多忙な先生方が、^{ゼロ}から教材を手作りしなくてもよいように「使えるものはみんなで共有しよう！」ということで、フォルダ「おたすけ箱」があります。

- ・「30分でできるケース会議」の資料
- ・指示カード
- ・熟語カード
- ・都道府県名カード
- ・言葉の宝箱カード
- ・インタビューゲーム
- ・計算フラッシュカード
- ・学級担任用支援ツール（総教セ2017）※対人関係ゲーム関連

これからも、教材のデータ、手作り教材や市販の教材の紹介など、お互いに提供し合える「おたすけ箱」にしていきます。皆さんの教材やツールの紹介もお待ちしております。